

1 実践概要

テ ー マ	「地震」や「津波」から「いのち」を守ろう
外部指導者	秋田大学地域創生センター 教授 水田 敏彦氏
実施日時	10月1日(水) 14:30から15:20まで
実施場所	六郷高等学校 第2体育館
参加者	生徒291名 地域住民2名 職員28名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
1 講師紹介 2 講話(パソコン、プロジェクター使用) [地震防止の基礎知識] (1)防災・・・災害を知ること(敵を知ること)。 ①震度6はどんな揺れか(ビデオ上映)。 ②死亡者の原因→9割以上が家屋倒壊。 ③時間帯によって火災被害が多い。 ④1階が弱い。窓、玄関などが原因で耐震性が弱い。 ⑤津波は100mを10秒で進む。予想以上に速い。 (2)地域を知る。 ①太平洋プレートが年8cm移動。秋田県は北アメリカプレート上にある。歪みのエネルギーを解放する形の地震多発。 ②日本の地震回数は世界の20%。活火山は世界の7%を占める。 [六郷周辺で発生した過去の地震] (1)陸羽地震(六郷地震ともいう) 1896.8.31(明治29年)発生。2か月前には三陸地震発生(1896.6.15)。陸羽地震はM7.2と推定。死者209名、山崩れ9,899か所。死亡者のうち、家屋倒壊91%、火災2%。	2 45	<input type="checkbox"/> 講師決定後事前打ち合わせを行い、学校側が準備する機材等を予め確認しておくこと。 <input type="checkbox"/> 講演会の案内を作成し、職員と生徒が配付する。

<p>(2)秋田仙北地震 1914.3.15(大正3年)発生。M7.1強首地震とも呼ぶ。死亡者のうち、家屋倒壊87%火災13%。 〔いのちを守る〕 ※活断層が南北に走り、奥羽山脈の岩手側にも活断層が存在する。秋田仙北地震から100年。今後近いうちにあってもおかしくない。過去の地震を知り語りつなぐこと。そして、備えること。(自宅では家具類を固定すること)が大事である。この先、自分の子ども、孫まで、地元で地震があったことを伝えてほしい。</p> <p>3 質疑応答 4 生徒お礼の言葉</p>	<p>1 2</p>	<p>□生徒には、講義を受けながらメモをとらせ、講義終了後には感想文を提出させる。</p>
--	-----------------	---



3 成果と課題

<p>成 果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 平日でありながらも、地域住民の方にも参加していただくことができて有意義であった。 2 特に「地震」について、過去に地元で起きた地震の当時の様子を詳細に説明していただき、「敵を知る」(地震災害)ことができて非常に参考になった。 3 陸羽地震も秋田仙北地震も、死者のうち家屋倒壊で亡くなっている方が非常に多いこと、現在も玄関や窓が影響して1階の耐震性が低いことを教えていただいた。 4 秋田仙北地震から100年、秋田駒ヶ岳の地表温度の上昇など近いうちに地震があってもおかしくない中で、備えること(家具類を固定すること)、語り継ぐことの必要性を教えていただいた。 5 津波について、100mを10秒で進むことを教えていただき、海沿いでは少しでも早く高台に避難しなければならないことを知ることができた。
<p>課 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者、地域住民に多数参加していただく工夫が必要である。